【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第４区分
【発行日】平成17年6月16日(2005.6.16)

【公開番号】特開2001-14710(P2001-14710A)
【公開日】平成13年1月19日(2001.1.19)
【出願番号】特願平11-184509
【国際特許分類第７版】
　Ｇ１１Ｂ　 7/12
　Ｇ１１Ｂ　11/105
【ＦＩ】
　Ｇ１１Ｂ　 7/12
　Ｇ１１Ｂ　11/105　 ５６６Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成16年9月16日(2004.9.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　ヘッド浮上機構を備えたスライダにレーザビーム透過部が形成され、前記レーザビーム透過部を介して光学的に記録再生を行う光学式記録再生ヘッドにおいて、光学式記録再生ヘッドの記録媒体の対抗面に20nm～200nmの保護膜が形成され、前記保護膜は２層以上の多層構造で、最表面の層がダイヤモンドライクカーボンで形成されていることを特徴とする光学式記録再生ヘッド。
【請求項２】
　請求項１記載の光学式記録再生ヘッドにおいて、保護膜の吸収係数が0.1以下であることを特徴とする光学式記録再生ヘッド。
【請求項３】
　請求項１記載の光学式記録再生ヘッドにおいて、保護膜の屈折率が1.5以上であることを特徴とする光学式記録再生ヘッド。
【請求項４】
　ヘッド浮上機構を備えたスライダにレーザビーム透過部が形成され、前記レーザビーム透過部を介して光学的に記録再生を行う光学式記録再生ヘッドにおいて、光学式記録再生ヘッドの記録媒体表面からの浮上量が５００ｎｍ以下であることを特徴とする光学式記録再生システム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
（比較例１）
　実施例１と同様な方法で光学ヘッドを作製、保護膜としてダイヤモンドライクカーボンを20ｎｍで構成した。成膜も実施例１と同様にCVD法により作製した。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
（比較例２）
実施例１と同様な方法で光学ヘッドを作製、ダイヤモンドライクカーボンを10ｎｍ、CVD法により作製した。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
（比較例３）
実施例１と同様な方法で光学ヘッドを作製、保護膜を設けなかった。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
【表１】

	表面層保護膜	第2層保護膜	保護膜吸収率	耐久時間(時間)
実施例1	DLC20nm	SiN100nm	0.06	>1000
実施例3	DLC20nm	TiN100nm	0.06	>1000
比較例1	DLC20nm		0.06	500
比較例2	DLC10nm		0.03	100
比較例3	—	—	—	0.2